

滞在型研究員報告書（様式2）

（2008 年 9 月策定）

国立天文台滞在型研究員の方には期間中の成果について報告をしていただくことになっております。このフォームに記していただき期間終了 2 週間以内に国立天文台研究支援係にご提出ください。なおこの報告書は研究成果の論文掲載前でも研究交流委員会の web 上に公開いたしますので、研究内容の詳細について記入していただく必要はありません。この研究の成果を学術誌等で発表するときはその旨を謝辞に記載してください。

所属 University of Denver（デンバー大学）

氏名 植田 稔也

受け入れ 氏名：泉浦 秀行

滞在期間 2010 年 4 月 15 日～ 2010 年 4 月 28 日

I. 滞在型研究員として国立天文台滞在中に行った活動について簡単にお書きください。
(Describe you activities during your stay)

赤外線衛星「あかり」ミッションプログラム MLHES により取得した晩期型星の星周殻の赤外線画像データを解析するスクリプトに、グリッチとグリッチによる履歴の影響を除くためのアルゴリズムを追加する作業を行った。

II. 今回滞在型研究員として得られた成果について簡単にお書きください。
(Describe you achievements during your stay)

あかり全天サーベイデータの解析プログラム用に書かれたスクリプトをもとにして、MLHES プログラムデータを解析する SlowScan Toolkit に組み込み可能なプログラムとして新たに書き下ろした。バグ出しを経て、MLHES データセット（4 バンド 1 4 5 天体）すべてにおいてエラー無しで動き、グリッチ検知・除去の性能も 90% ぐらいのレベルに持っていくことができた。

III. この制度についてなにか御意見がありましたら、なんでも記入ください。
(Any comments about this fund and system)

今回の活動ではそれなりのプログラムを組む必要があったので、滞在型研究員として通常の業務から離れてまとまった研究時間を確保できたことは非常にありがたかった。特に岡山観測所の環境は滞在者が研究に没頭するのに適していると思う。